



反ナチ抵抗運動とモルトケ伯

クライザウ・サークルの軌跡

10月14日発売

雨宮栄一 [著]

敗戦後の新生ドイツを望み見て

再建案を構想した人々

雨宮栄一（あめみや・えいいち）
1927年生まれ。日本基督教神学専門学校卒業。西独に留学。山梨教会、阿佐谷東教会、東駒形教会牧師を経て、中部学院大学教授を務めた。著書は『ハルメン宣言研究』、『ドイツ教会闘争の展開』、『ユダヤ人虐殺とドイツの教会』、『ドイツ教会闘争の挫折』、『二人の平和主義者の殉教』のほか、植村正久、高倉徳太郎、賀川豊彦などの評伝を多数著した。2019年逝去。

クライザウ・サークルとは、ナチに反対し、ドイツ敗戦を見越して戦後の再建構想を練った、ユンカーをはじめ、神父や牧師、学者、労働運動指導者など、多様な人々が参加したグループである。彼らの大半はゲシュタポに逮捕され死刑に処せられた。本書は、この知られざる抵抗運動の中心人物であった法律家ジエームズ・フォン・モルトケの人物像と思想、とりわけキリスト教との関係を明らかにしている。著者の遺作となった。

▼雨宮栄一氏による関連既刊書

フリードリヒ・ユストウス・ペーレルス

告白教会の顧問弁護士

法律家という専門職の立場からドイツ教会闘争、更には反ナチ抵抗運動に参加した彼の短い生涯を通して、従来紹介されることの少なかった、教会闘争における信徒の働きを明らかにした貴重な労作。

◆四六判・310頁・定価3410円



良き力に不思議に守られて

講演・説教・論考

宮田光雄 著

神への根源的信頼に生きる道を指し示す

◆小B6判・170頁・定価1540円

10月25日発売

単行本未収録の珠玉の説教5編のほか、メルヘンを通して神と出会う可能性を考察した「メルヘンの森で神と出会う」、神表現の極限を追求したユニークな現代造形作家バーネット・ニューマンを巡る論考など7編を収録。

宮田光雄（みやた・みつお）

1928年生まれ。東京大学法学部卒業。東北大学名誉教授。長年にわたり宮田学生聖書研究会を主宰し青年伝道に力を注いだ。主な著書は『西ドイツの精神構造』（学士院賞）、『政治と宗教倫理』、『現代日本の民主主義』（吉野作造賞）、『非武装国民抵抗の思想』、『聖書の信仰』全7巻、『国家と宗教』、『宮田光雄思想史論集』全8巻他多数。

【目次より】

I

1 《出エジプト》——新しい出発

II

2 生命の水を求めて——イエスとの出会い

3 後なる者は先に、先なる者は後に

——マタイ二〇・一一―二六

4 〈盛大な晩餐会〉への招き

——ルカ二四・二五―二四

5 なすべきこととはただつ

——パウロの宣教（フィリピ三・三―二四）

III

6 メルヘンの森で神と出会う

付 暗黒から光の世界へ——バーネット・ニューマンの《十字架の道行き》

良き力に守られて——「あとがき」に代えて

【宮田光雄氏の既刊書から】

ベツレヘムの星 聖書的象徴による黙想

◆A5 変型判・定価 2090 円

聖書の多様な象徴に込められた信仰のメッセージを豊富な図版と共に読み解く。

私の聖書物語 イースター黙想

◆B6 変型判・定価 1980 円

「復活」をめぐる紡ぎ出される思索の跡を収めた、味わい深い黙想集。

《放蕩息子》の精神史 イエスのたとえを読む

◆新書判・定価 1540 円

この譬が時代や文化を越えていかに人々の精神に刺激を与え続けてきたかを示す。

大野恵正著

旧約聖書入門4 歴史書が語ること

旧約聖書の深い内容を平易な語り口で解説することに定評があるシリーズの第四弾。本書はヨシヤ記、土師記、サムエル記上下、列王記上下、歴代誌上下、エズラ記、ネヘミヤ記、ルツ記、エステル記を扱い、激動の歴史を通して顕される神の意思を解き明かす。

小B6判・予価1980円

ジャン・カルヴァン著／森川甫・吉田隆訳

共観福音書註解 下

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

A5判・予価8500円

勝田茅生著

物語とロゴセラピー 「仮題」

いかなる人間にもミッションが与えられているというフランクルの創始したロゴセラピーの本質的なメッセージを、民話や寓話を例にとりながら分かりやすく説き明かす。著者はドイツで長年にわたりロゴセラピストとして活躍してきた実践家。

小B6判・予価2000円

● 9月に出た本と雑誌

教父学入門 ニカイア以前の教父たち

土井健司著

使徒教父、弁証家、アレクサンドリアのクレメンヌスやオリゲネス、テルトゥリアヌスにキプリアヌス等、また古代文献に表れた女性たちも視野に取めながら、教父たちの世界へと興味深くいざなう、類書のない貴重な入門書。



◆四六判・定価2420円

呻きから始まる

栗田隆子著

祈りと行動に関する24の手紙



信仰、そしてフェミニズムと出会う自らの歩みを辿る。登校拒否とシスターとの出会い、洗礼と教会、進学と恋愛、研究への失望と就職の困難、運動と組織などの問題をめぐって読者にあてた手紙。

◆四六判・定価2200円

福音と世界

10月号 土と農を愛する

◆定価660円

寄稿者：泉川道子、エップ・レイモンド&荒谷明子、石井智恵美、李民洙、木村護郎クリストフ、福岡揚／並木浩一／好評連載 山下壮起、C・J・サンダース&A・ヤーバー、山口陽一、山崎ランサム和彦、田崎英明、村澤真保呂、勝村弘也、有住航

●「パパ」。役所や病院でそのように呼ばれるたび、「パパ……？」と思わず首をひねってしまいます。あえて原則的なことを言いますが、近代家族における父とは家父長制権力の極点であって、少なくともわたしたちのあいだでは、そのような役割を放棄するためのささやかな工夫として、「パパ」「ママ」という呼称は使っていません。もちろん、そのように言ってくる人に他意があるわけではなく、だいたいそこには「パパに抱っこしてもらおうね〜」などと「愛に満ちたほのほの家族」的な呼びかけがくつついてくるのですが、そう言われてもわたしとしては映画『マッド・ダディ』のことを考えざるをえません。二〇一七年公開の本作で主演を張るのは、あのニコラス・ケイジ。生活上の数多の問題を抱え、多額の借金を返済すべく最近ではB級映画に出まくっていると噂されており、本作もその例外ではありません。いやむしろ、冷え切った家族関係のなか、若い頃にヤンチャした思い出にしがみつき続ける主人公の姿は、ニコラス・ケイジその人と否応なく重なります。なかでも、いわゆる「男の隠れ家」を地下室に築いていたのを妻に咎められ、逆上して自らそれを粉砕するシーンのバカバカしさと痛々

しさたるや。そんな本作のストーリーは、怪電波を受信した親たちが、愛情表現として自らの子どもを手にはじめるといふもの。張る殺意で我が子を追い回す主人公はなるほどたしかに「パパ」なのでしようが、決してああはなりたくない、同作を観るたびに思う次第です。(堀)

●来年の渡辺禎雄版画カレンダーがよいよ発売となりました(定価五五〇円)。七月号でお知らせしたように、今回の作品は「復活」(一九七五年)です。主イエスから「マリア」と呼びかけられ、マグダラのマリアが復活者を認識する劇的な場面を、静かな緊張を湛えた清澄な絵が余すところなく伝えていきます。贈り物にも喜ばれる逸品です。(小林)



福音と世界

2022年
11

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8760円

特集・ヘイト／反ヘイト

何が「われわれ」をつくるのか

この規範なき世界で 中村一成

ヘイトクライムの「抑止」としての 斉藤小百合

規制法をめぐって 李明生

人権は「限られた財」か? 大久保正禎

日本キリスト教史とヘイト 崔江以子

「約束」の成就に向けた前進 工藤万里江

【書評】平良愛香監修 「LGBTとキリスト教」……………

【好評連載】 「LGBTとキリスト教」……………

◆フッド・スピリチュアルズ 5 …………… 山下壮起

◆教会におけるマイノリティの存在 7 …………… サンダース、ヤーバー

◆「日本的キリスト教」を読む 10 …………… 山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書 11 …………… 山崎ランサム和彦

◆間隙を思考する 非同時代性のために 20 …………… 田崎英明

◆古代イスラエル文学史序説 21 …………… 勝村弘也

◆霊性のエゴロジ あるはマリア 22 …………… 村澤真保呂

◆福音のフラグメント 22 …………… 有住航